

III 刊行「切絵図」の源流

～「吉文字屋板切絵図」

江戸という巨大都市で生まれた地図は、その正確さ、情報の詳細さを追い求めた結果大型化の一途をたどり、実際に使用する際の利便性を考慮した分割地図である「切絵図」が生み出されました。とくに幕末から明治初年にかけて絵草紙屋の尾張屋清七を板元として出版された切絵図は大ベストセラーとなり、現在でも複製図や雑誌などでしばしば目にする機会があります。

しかし、これにおよそ1世紀近く先行して刊行された切絵図群があったことはあまり知られていません。

このコーナーでは、宝暦5年(1755)から安永4年(1775)にかけて板行された全8点からなる吉文字屋板切絵図をご紹介します。後の切絵図ブームの先駆けとして18世紀半ば以降に製作され、江戸の範囲全体の刊行を見ずして8点だけで途絶えてしまった幻のシリーズをじっくりとご覧ください。